

# 宮城県林業普及活動情報

2025. 10月号 No. 209

## もくじ

### 各地の林業普及活動情報

P 2 ~ 1 0

- せんなんマルシェin大河原合同庁舎の開催 (大河原地方振興事務所)
- 森林経営計画の策定に向けた支援 (大河原地方振興事務所)
- 「野生きのこ等」への注意喚起(巡回指導) (大河原地方振興事務所)
- 地域協働型スマート林業教育プログラム実習の開催 (大河原地方振興事務所)
- 全国育樹祭において木桶プロジェクトを発信 (仙台地方振興事務所)
- 宮城県仙台第三高等学校台中訪問事業及びグリーンソフトベンチャーにおける活動を支援 (仙台地方振興事務所)
- 県内産原木使用再開に向けた取組 (北部地方振興事務所)
- 国産漆生産を目的としたウルシ植栽に関する打合せ (北部地方振興事務所)
- 「山の幸販売会in栗原」の開催 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「県産広葉樹スタートアップ事業」への支援 (東部地方振興事務所)
- 「林業ICT技術推進研修」の実施 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- スマート林業(地形情報データ)活用研修を開催 (気仙沼地方振興事務所)
- 新月中学校第2学年職場体験学習を支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 海に見える命の森づくり植樹祭を支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 気仙沼市産業まつりを支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 松岩小学校の植樹体験を支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 林業普及指導員専門別研修(刈払機)を開催 (林業技術総合センター)

## せんなんマルシェ in大河原合同庁舎の開催

大河原地方振興事務所

【1日(水)】

当所の各部と連携し、仙南地区の農林産物や加工品等を広くPRする販売会を大河原合同庁舎で開催しました。

この販売会は、3年前から開催しており、今年度では初回になります。仙南地域産の農林産物や加工品の販売ほか、地元飲食店等による特色あるメニューが提供され、消費者に向けて仙南地域の魅力を広くPRしました。

今回は、原木しいたけ、きくらげ、丸森産たけのこを使用した加工品等多くの方に店いただき、マルシェを盛り上げていただくとともに、山の幸の魅力を伝える良い機会となりました。また、開催間近となった全国育樹祭記念行事として、木製カプセルトイの抽選や育樹祭のPRも行いました。抽選プレゼントの当所オリジナルの木製バッチ(地元作製)は、大変ご好評いただき、育樹祭と木製品のPRに一役買いました。

今後も、仙南の山の幸の販路拡大に向け、関係機関と連携しながら、生産者支援と魅力発信を継続していきます。



【販売会の様子】

## 森林経営計画の策定に向けた支援

大河原地方振興事務所

【1日(水)、3日(金)、8日(水)、15日(水)】

当管内において、新たな森林経営計画の策定に向けた打合せを行いました。来年4月に予定している計画開始に向け、個別の作業スケジュールを確認し、また、民間事業者による既認定分の変更2件については、事業者と連携しながら森林簿等の内容確認を進め、年内を目途に変更認定申請に向けた準備を行いました。

今年度は、これらに基づき計画を作成することとしており、具体的な作成方法等についてアドバイス等を行うことにより、次へのステップが明確になりました。

引き続き、新たな制度に対する取組が円滑に進むよう、必要な指導・助言を行っていきます。



【打合せの様子】



## 「野生きのこ等」への注意喚起(巡回指導)

大河原地方振興事務所

【2日(木)、6日(月)】

秋のきのこシーズンに伴い、管内の特用林産物を取り扱う直売所を対象に、放射性物質による食の安全・安心を確保するため巡回指導を実施しました。

今回は、これまでの情報収集等により野生きのこの取り扱いが想定される管内の直売所を主な対象に、放射性物濃度の基準値を超えた商品を流通させないよう、また、毒キノコ等の取り扱いに注意するよう巡回指導を実施し注意喚起を行い、販売者には、改めて、食の安全・安心を確保するため、検査の必要性を再認識していただきました。

引き続き、適宜、巡回指導を行いながら、関係機関と連携のもと、安全安心な食品の流通について、注意喚起を行っていきます。



【各巡回先の様子】

## 地域協働型スマート林業教育プログラム実習の開催

大河原地方振興事務所

【21日(火)】

林野庁の委託事業である「令和7年度地域協働型スマート林業教育プログラムの作成実施」の中で計画していた、GNSSを用いた森林の測量実習とGISソフトへの取込方法について、大河原産業高等学校環境科学科森林類型の3年生に対し実習を行いました。実習では、同校の演習林での境界測量を行い、GNSS機器の操作方法を、実際に測量をしてもらいながら説明しました。また、GNSSで測量したデータをGISソフト「QGIS」に取り込み、データ上で管理する方法について、こちらも実際にソフトを操作してもらいながら講義を行いました。

同校では演習林管理をデジタル化するため、今後も継続的にGNSSによる測量やデータの取込を行っていくことを予定しているため、当事務所としてはそういった機会を通じて、生徒たちがスマート林業への理解を深められるよう支援を継続していきます。



【GNSS測量実習の様子】



【GISソフトへの取込方法の講義】

## 全国育樹祭において木桶プロジェクトを発信

仙台地方振興事務所

【3日(金)】

県産材で製作する木桶の普及を通じて、木づかい文化を発信するため、全国育樹祭において木桶プロジェクトの紹介コーナーを設置しました。昨年度に塩竈市の酒蔵と石巻市の木材加工業のマッチングが成立し、酒蔵に県産スギの半切桶が納品されました。この度、その半切桶を使用して仕込みされた日本酒が全国育樹祭の懇談会の乾杯酒となったことを受け、会場に木桶プロジェクトのPRコーナー設置が実現しました。

懇談会当日は、御来場の皆様から木桶仕込みの乾杯酒に大好評を得たそうです。

引き続き酒・味噌・醤油・酢の醸造元と木材加工業のマッチングに取り組み、「木桶の文化」＝「木づかいの文化」の発信を通じて、みやぎの木材利用を推進していきます。



【木桶コーナー設置の状況】

## 宮城県仙台第三高等学校台中訪問事業及びグリーンアドベンチャーにおける活動を支援

仙台地方振興事務所

【24日(金)、26日(日)】

宮城県仙台第三高等学校では、学校林において、自然観察実習を通じた各種交流活動を行っています。

今回は台湾学生や小学生を対象に交流活動を行いました。仙台三高生と台湾学生、仙台三高生と小学生がそれぞれペアとなって、学校林内の樹種当てゲームや葉拓作り等の活動をする際に、林業普及指導員が支援し「森林のはたらき」について講話を行いました。

今年度上半期に林業技術総合センター職員が樹木の同定の仕方を指導したこともあり、仙台三高生は積極的に台湾学生や小学生に同定方法を伝授していましたが、同定が難しい樹種については、普及指導員が再度同定方法や葉や実の特徴等を指導し、理解が得られました。

「森林のはたらき」の講話では、森林の持つ多面的機能や森林整備の大切さを啓発し、理解が深まりました。

引き続き仙台三高と連携を取りながら、木育活動を支援していきます。



【台中訪問事業支援の様子】



【グリーンアドベンチャー講話】



## 県内産原木使用再開に向けた取組

北部地方振興事務所

【3日(金)】

東京電力福島原発事故による放射能汚染の影響により、県内産原木の使用制限中ですが、再開に向けた取組として、当管内から伐採した広葉樹を事業体協力のもと14検体確保しました。

測定においては、東北大学が設置したベルトコンベヤー式を使用して放射線量の把握が出来るため、データ蓄積が図られ、再開に向けた足掛かりとなります。

生産者にとって、長年の願いである県内産しいたけ原木生産の早期実現に向け取り組んでいきます。



【放射線測定用広葉樹原木】

## 国産漆生産を目的としたウルシ植栽に関する打合せ

北部地方振興事務所

【6日(月)、7日(火)】

国産漆を使用した鳴子漆器製作を支援するため大崎地域の森林にウルシを植栽する提案を行いました。大崎市林務担当と伝統工芸担当部署に対し、国産漆を活用した漆器製作に関する近年の情勢について情報を提供しました。

ウルシの植栽については理解が得られ、大崎市有林に植栽を試みるようになりました。今後は生育状況を確認しながら、漆掻きによる漆の採取について検討していきます。



【打合せの様子】

## 「山の幸販売会in栗原」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【21日(火)】

栗原地域事務所では令和5年度から、管内のキノコ生産事業者の発案により栗原合同庁舎玄関において「山の幸販売会 in 栗原」を開催しています。

これは管内複数のキノコ生産事業者及び、彼らに呼応した関係事業者(パン・弁当など)が自ら生産・製造した商品を一同に販売するものです。

これまで6回開催されてきたこともあり、合同庁舎の来庁者や職員の間で認知され関心も高く、今回も販売が大変好調でした。

この販売会は今年度3回の開催が計画されており、引き続き、特用林産物を軸とした「地



【特に昼休みは大盛況でした】

域おこし」が円滑に運営できるようサポートに努めていきたいと考えています。

## 「県産広葉樹スタートアップ事業」への支援

東部地方振興事務所

【1日(水)、2日(木)】

補助事業を活用し、新たに県産広葉樹を利用した木樽づくりに取り組んでいる木工業者に対し、木材加工や伝統工芸を専門とする秋田県立大学木材高度加工研究所の教授を招いて、曲げ加工等についての技術指導を受けました。

1日目は木樽製作に関して、金具や曲げ加工、密着の重要性について、教授から助言をいただきました。

2日目は実際に木樽を製作する曲げ加工等の作業に同席してもらい、熱を加えながらの板材の曲げ、密着の工程について、表面温度を測定し行いました。

今回の教授からのアドバイスにより、後日、木工業者の方で、県産コナラ材を用いた木樽の試作品を仕上げることができました。



【木樽制作の様子】

## 「林業ICT技術推進研修」の実施

東部地方振興事務所登米地域事務所

【7日(火)、9日(木)】

登米地域の林業事業体担当者を対象にICT技術（GNSSを活用した森林測量）の知識と実践に関する研修を実施しました。

研修では機器の操作方法を確認しながら、スマートフォンに搭載したGNSSの位置情報と森林計画図を照合し、実際に間伐を行った現場の周囲測量を実施しました。

参加者は、コンパス測量との所要時間の違いを実感するとともに、補助申請や森林所有者への説明に使用可能な施業図の作成方法を熱心に学んでいました。



【GNSSを使用した施業地周囲測量】



【GNSS測量の基礎知識と作図研修】



## スマート林業（地形情報データ）活用研修を開催

気仙沼地方振興事務所

【14日(火)、22日(水)、30日(木)】

県土木部で実施した航空レーザー測量の測量成果を基に作成されたC S 立体図を活用して、災害に強い路網整備や維持管理方法を管内の市町・森林組合・民間林業事業体へ普及するために、個別研修を開催しました。

従来の地形図から現場の詳細な地形を読み取り、施業を実施することは個人の経験に大きく左右されていましたが、C S 立体図を活用することにより、現場地形を把握しやすくなりました。

このC S 立体図を活用することで、より現場状況に対応した施業を行うことができるため、近年増加している集中豪雨や台風などの異常気象に強い路網整備や維持管理につながっていきます。

このため管内で森林整備を行っている事業体に対して、地形の読み取り方法についての簡単な座学と図面上で確認した地形についての現場研修を行うことで、有用性について実感していただくことが出来ました。

今後も現場施業に役立つ技術や情報の発信及び普及に努め、管内の森林整備を推進して参ります。



【施業現場でのC S 立体図と現況との比較】



【座学によるC S 立体図の概要説明】

## 新月中旬学校第2学年職場体験学習を支援

気仙沼地方振興事務所

【8日(水)、9日(木)】

気仙沼市立新月中旬学校では、職業に関する調査や体験活動、表現活動を通して、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付けるとともに、職業に関する学習を通して、将来の生き方や総合的な学習の探究課題と結び付け、進路選択の参考や課題解決に向かう一助とするため、職場体験学習が実施されています。

様々な業種がある中で、今年度は1名の男子生徒が林業分野を選択し、当所としては2日間の体験学習カリキュラム作成及び体験学習引率などの支援を実施しました。

カリキュラムについては、「植える→育てる→収穫する→適材適所で使う→植える」という森林資源の循環利用サイクルを体験して



【コンテナ苗づくり体験】



もらい、森林の持つ公益的機能や地域の森林現況について学習することを心懸け作成しております。

従来では中々見る機会のない「製材所」や「きのこ栽培施設」・「高性能林業機械を活用した伐採現場」など、幅広い林業関係施設の視察・体験を検討しておりますので、来年度は多くの生徒の参加をお待ちしております。



【海岸防災林の枝打ち体験】

## 海に見える命の森づくり植樹祭を支援

気仙沼地方振興事務所

【22日(水)】

第48回全国育樹祭の開催を記念し、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発することを目的に、東日本大震災の津波により大きな被害のあった南三陸町の太平洋を望める「海に見える命の森」において、地元の小学校や地域住民と協働の上で植樹祭が開催されました。

当日は、南三陸町立志津川小学校及び入谷小学校の生徒を中心とした約80名の参加があり、ヤマザクラなど広葉樹7種約100本が植樹されました。

当所としては、参加者の植樹支援を行っており、参加者は慣れない手つきの中で悪戦苦闘しながら植樹活動に励んでおりました。



【植樹状況】

## 気仙沼市産業まつりを支援

気仙沼地方振興事務所

【26日(日)】

気仙沼市産業まつりが開催され、当所では昨年度同様に「特用林産物の試食（気仙沼市産メンマ）」・「なりきり林業キッズ体験」・「モルック体験」・「地元ゆるキャラ顔はめパネル」の他に、各種取組を体験された方に木製ガチャガチャによる林業PRオリジナルグッズの配布を行いました。

グッズ自体は昨年度も配布を行っていましたが、木製ガチャガチャの人气が爆発し、オリジナルグッズが早々と無くなってしまいうなど当ブースは非常に好評でした。

これからも、誰もが楽しめる林業体験を提供していきますので、見かけましたら、当ブ



【人気の木製ガチャガチャ】



ースにぜひお立ち寄り下さい。



【モルック体験】

### 松岩小学校の植樹体験を支援

気仙沼地方振興事務所

【28日(火)】

気仙沼市立松岩小学校では、5年生（児童66名）の総合学習において、「気仙沼の豊かな海と森林環境の関わり」をテーマに学んでおり、その一環として、（一社）松岩愛林公益会等の協力を受け、同会の所有山林に有限会社早稲谷から提供された広葉樹（クヌギ・コナラ・エノキ）を植林しました。

当所では、森林が持つ機能と山と海とのつながりについて説明するとともに、苗木の植え方のデモンストレーションを交えて、植林作業の支援を行いました。

参加した児童は今回の植林を通じて、日本有数の豊かな漁場である気仙沼湾の海産物が、山の恵みに支えられていることを理解し、木を植える楽しみや、気仙沼の環境を守っていく重要性を感じとっていたようでした。



【植え方デモンストレーション】



【植樹状況】

## 林業普及指導員専門別研修（刈払機）を開催

林業技術総合センター

【21日（火）】

県林務職員が、現場において刈払機取扱作業を指導・実施する際に、労働基準法で事業者に求められる義務と同等の責務を確保するため、3名の受講者を得て、平成12年2月16日付け基発第66号の通達に規定する安全衛生教育を実施し、修了証を交付しました。

カリキュラムは通達の必要教程を必要時間実施しました。教育は、テキスト各章に沿って実施しました。また、昨年草寄せ・苗木近接刈りの練習に丸棒を用いたシャドー練習を加え、熟度の向上に役立てています。

これからも、各種普及指導等に向けた県職員の林業技能向上に努めます。



【シャドー練習の模様】